

1. 単元名(主題) 「1年間の振り返り -SSⅡへの接続-」

～専門的課題研究の継続性の確認と次年度に向けた意思決定～

2. 本時の主題の概要および設定理由

本校の学校設定科目「SSⅠ(総合的な探究の時間)」において、生徒は前期に「プレ探究」を通じて探究活動の基礎を学び、後期からは「専門的課題研究」としてチームごとの本格的な研究活動をスタートさせ、先日はその中間発表会を終えた。高2(SSⅡ)では週2時間の授業が展開され、同じチームで現在の研究テーマをさらに1年間継続し、次年度2月の「生徒探究発表会」における最終成果発表を目指す。このように、本校の課題研究は1年半に及ぶ長期的なスパンで設計されている。

専門的課題研究はチームでの継続研究が大原則であるが、現段階において「現在の研究テーマの行き詰まり」や「共同研究におけるチーム内の不和・乖離」などの課題に直面している生徒も存在する。

本時は、通常授業とは異なり、講堂に学年全体を集めて行う20分間のガイダンス授業(一斉伝達)である。探究科教員がメインスピーカーとして、SSⅡへの接続における「チームとしての継続性」「個人としての継続性(チーム変更の特例措置等)」について、その教育的意義と申請手続きのルールを明示する。

生徒が自己の探究プロセスを客観的に省察し、次年度の活動に前向きかつ主体的に取り組むための重要な意思決定の機会とするために、本主題を設定した。

3. 本時の目標

- 1) **探究プロセスの理解と見通し:** 1年半にわたる「専門的課題研究」の全体像(中間発表から次年度2月の最終成果発表まで)を再確認し、高2のSSⅡにおける探究活動の見通しを持つことができる。
- 2) **継続研究における自己評価と合意形成:** 現在の研究テーマやチーム体制の現状(行き詰まりや乖離の有無)について、継続という原則を理解した上で客観的に省察し、チーム内での話し合いや教員への相談を通じて今後の方向性を主体的に判断できる。
- 3) **主体的かつ適切な意思決定:** ガイダンスの趣旨を正しく理解し、次年度の継続研究の可否や要望について、フォーム「【SSⅠ→Ⅱ】次年度継続研究可否調査」を用いて期限内に正確かつ誠実に回答・申告できる。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: 『SSⅠ総探-第30回スライド』
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也/新興出版社啓林館/2021)
- 提出用フォーム: 『【SSⅠ→Ⅱ】次年度継続研究可否調査』(Google Classroomにて配信済み)
- 共通参照資料: 『高1 SSⅠ学習の手引き』

5. 本時の展開(20分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
1分	(1) 集合および授業環境の確認 - 速やかに講堂に集合し、クラスごとに整列・着席する。 - スライドが提示され、ガイダンス開始に向けてメモをとる準備をする。	- 担任・副担任は、講堂への移動を速やかに促し、私語を慎んで聴く姿勢を作らせる。 - 探究科教員(メインスピーカー)は、プロジェクターの投影状態を確認し、速やかに説明を開始する。
3分	(2) 専門的課題研究における全体像の復習 - 先日の「専門的課題研究中間発表会」の労いを受ける。 - SSの全体像(高1前期:プレ探究、高1後期～高2:専門的課題研究、高2の2月:生徒探究発表会・最終成果発表)を再確認し、1年半にわたる研究活動のゴールをイメージする。	【メインスピーカー(探究科教員)の指導】 - 中間発表会での生徒の努力を十分に評価し、次年度に向けたモチベーションを高める声かけを行う。 「SSⅡは週2時間になり、活動がより本格化する」ことを示し、これまでの積み上げが最終的な成果発表へとつながる見通しを持たせる。 【他の教員の支援】 - 生徒の傾聴態度を見守る。
5分	(3) 継続研究について考える(大原則と課題) - 専門的課題研究が「1年半の継続研究」であり、次年度も現在のチーム・同じテーマで活動するのが大原則であることを理解する。 - 本格化する現段階において、チームとしてのテーマの行き詰まりや、個人としてチーム内の研究内容との間に生じている乖離について省察する。	【メインスピーカー(探究科教員)の指導】 「同じテーマ・チームでの継続が原則」であることを毅然と、かつ論理的に説明する。 - その上で、研究活動が本格化する中で生じやすい「不安や行き詰まり、乖離」といった課題に共感を示し、本日のガイダンスがそれらを解消するための重要な手続きであることを伝える。
5分	(4) チームとしての継続性(テーマ変更のルール) - チームとして現在のテーマで研究を続けることが極めて困難な場合における対応方法を理解する。 - 安易なテーマ変更は望ましくないこと、および変更を検討すべき具体的な状況(リサーチクエスションの再定義が自力解決困難な壁に突き当たった等)を理解する。 - 次年度初回到「新指導教員」に相談するための準備、およびフォームの「次年度指導教員への申し送り」の活用方法を理解する。	【メインスピーカー(探究科教員)の指導】 - テーマ変更は「逃避行動」ではなく、「先行研究を深く調べた結果、新規のリサーチクエスションが見出せなくなった」という探究上の論理的な障壁を指すことを説明する。 - 今年度中にチーム内での話し合いや現指導教員への相談を推奨し、次年度初回授業における新指導教員との面談に備え、詳細に事情をフォームに記述するよう指導する。
5分	(5) 個人としての継続性(チーム変更のルール) - 共同研究を継続できない特別な事情がある場合の対応方法を理解する。 - 原則としてチーム変更は認められない理由(共同研究におけるコミュニケーションと合意形成も重要な学びであるため)を理解する。 - 現在のチーム継続が「極めて困難」である場合、フォームへ希望理由を入力し、教員側で妥当性を審議・可否判断することを確認する。 - 事前に現在のチームメンバーに意思を伝え	【メインスピーカー(探究科教員)の指導】 - チーム変更が原則不可である教育的意図(多様な意見の折り合いをつける力の育成)を伝える。 - どうしても継続困難な「特別な事情」がある場合のみ、希望理由書(フォーム)をもとに変更可否を判断することを説明する。 - メンバーへの直接の意思表示が難しい場合は、担任・副担任、あるいは探究科担当教員まで早急に相談するように呼びかける。

	ること、困難な場合は担任、副担任、または探究科の担当教員に直接相談することを理解する。	
1分	(6) クロージング ● フォーム「【SSⅠ→Ⅱ】次年度継続研究可否調査」の送信期限を確認する。 ● 探究科教員からの1年間の労いと今後に向けた激励の言葉(1年間のプロセスの評価、次年度SSⅡに向けた期待と鼓舞)を受け、活動の動機付けを行う。	【メインスピーカー(探究科教員)の指導】 ● フォームの提出期限を強調し、未提出者が出ないように指導する。 ● 最後に、「今年度の探究活動で培った主体性や協働の経験を最大限に活かし、高2のSSⅡではさらに高い次元の研究へと発展させ、1年半の集大成として社会に還元できる立派な研究成果を上げることが期待している」旨を伝え、生徒の挑戦意欲を鼓舞する。 【ガイダンス終了後: 担任・副担任の支援】 ● 「悩んでいる様子」が見られる生徒に対して積極的に声をかける。必要に応じて、別室などに連れ出して個別に相談に乗り、探究科教員へ引き継ぐ。